

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	<input checked="" type="radio"/> 安全 <input type="radio"/> 防災 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> ICT <input type="radio"/> 品質 （該当する分類に○を付けてください）																							
技術名称	きゃぶわーるこうぼう CAB WALL工法	担当部署	矢作建設工業(株)九州支店																					
NETIS登録番号	CB-140002-A	担当者	真行寺 康明																					
社名等	CAB WALL工法研究会	電話番号	092-752-9501																					
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>・現道を拡幅する場合、盛土補強土補強壁を計画すると、工事影響範囲が大きく、掘削土量も膨大となります。また、現道を通行止もしくは幅員減少など、利用者との調整が必要になります。CAB WALLの場合、掘削土量と盛土土量を低減し、工事影響範囲を小さくすることができます。また現道への支障を最小減にでき、スムーズで安全な工事が可能になります。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>・CAB WALL工法は、CUT AND BANKの頭文字から取った名称であり、地山補強土工法(CAB-C)と盛土補強土壁工法(CAB-B)を一体的な構造物とする新しい複合補強土壁工法である。構造物下部に切土法面の安定化工法の1つであるCAB-C工法により支持地盤の安定性を高めた上でその上部に盛土補強土壁であるCAB-B工法を設置する構造形式となる。本工法は、CAB-C工法とCAB-B工法という相性の良い構造形式を接続方法に留意して一体的に構築することにより、お互いのメリットを活かす新しい複合補強土壁工法である。なお、適用高さは15.0m程度まで、適用勾配は垂直を標準とするが、現地の地形・地質条件に応じた設計により決定される。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>・逆巻き施工を標準とするため、高所作業が削減され、施工上の安全性が向上。 ・法面の急勾配化による改変面積の減少により、支障物の保護・環境負荷の低減。 ・表面工のプレキャスト化による工期短縮と省力化の実現 ・工場生産による製品品質の確保と意匠デザインの多様化による景観性の向上。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>①適用可能な範囲 ・適用勾配は3分を標準とし、垂直勾配～5分程度、適用高さは20m程度までが目安である。 ②特に効果の高い適用範囲 ・特に効果の高い適用勾配は3分、適用高さは8m以上である。 ③適用できない範囲 ・一般に軟弱粘性土地山には不向きである。</p> <p>5. 活用実績</p> <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>0 件</td> <td>（九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>3 件</td> <td>（九州</td> <td>2件</td> <td>、九州以外</td> <td>1件</td> <td>）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>0 件</td> <td>（九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件</td> <td>）</td> </tr> </table>			国の機関	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件	）	自治体	3 件	（九州	2件	、九州以外	1件	）	民間	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件	）
国の機関	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件	）																		
自治体	3 件	（九州	2件	、九州以外	1件	）																		
民間	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件	）																		

6. 写真・図・表



現道を拡幅する場合、盛土補強土壁を計画すると、**工事影響範囲が大きく、掘削土量も膨大**となります。
また、**現道を通行止**もしくは**幅員減少**など、利用者との調整が必要になります。

CAB WALLの場合、**掘削土量と盛土土量を低減**し、**工事影響範囲を小さく**することができます。
また現道への**支障を最小限**にでき、**スムーズで安全な工事が可能**になります。